

アドバイザー派遣事業 実施レポート

西部学びの会

代表 米田 達司

1. 研修テーマ 学校全体で取り組む「学び合い」への授業改善
2. 研修日 第1回 平成30年 6月 1日 (金) 南部中学校会場
第2回 平成30年10月18日 (木) 大山中学校会場
3. アドバイザー 杉江修治 教授 (中京大学)
4. 研修内容とまとめ

第1回 (南部中学校会場) 参加人数58人

- ① 公開授業
- ② 全体研究授業 (2年 理科)
- ③ 研究協議
- ④ 講演 「協同学習で勧めるアクティブな学び」

まとめ

近隣の中学校や校区内の小学校の職員にも多数ご参加いただいた。

講師には、それぞれの会場で授業を見ていただいた。その後、全体研究授業の研究協議にご参加いただきアドバイスをいただいた。公開授業については授業者に直接アドバイスをいただくことができた。

指導助言では、小規模校では子どもが見えすぎて手をかけすぎるため生徒の自主性が育ちにくいというデメリットがある、活動中は教員が生徒に口出し過ぎない、指示の出し方が適切であれば生徒は静かに活動に入れる、などのご指導をいただいた。

また、講師には「協同学習で勧めるアクティブな学び」という演題でご講演いただいた。校区内の小学校の職員にも多数ご参加いただき、今後、小中連携で協同学習を取り組んでいくために共通理解ができたと考える。

第2回 (大山中学校会場) 参加人数28人

- ① 公開授業
- ② 公開授業指導助言
- ③ 全体研究授業 (3年 理科)
- ④ 授業研究会

まとめ

まず指導案の書き方について指導を受けた。生徒の学習活動の欄を読んだときに、生徒の活動が明確にイメージでき、生徒の生き生きとした学びの姿が期待できるような表記をすることが望ましい。そこがきちんと記述できると指導者も授業展開を具体的にイメージしやすくなるとの指導を受けた。

公開授業においては、生徒が学習につまずきを感じたときに、自ら教科書を開いて自力解決しようとする姿勢が見られた。これは普段からの指導の賜物であるが、これが定着すると家庭学習にもつながるため、これからも継続して指導していきたい。また、本時のねらいは明確に示していることが多いが、グループ活動に入るとき、グループ課題の提示が不明確になっている場面もあった。単にグループの形態にすることが重要ではなく、グループにする必然性とグループのメンバー全員がすべきことを明確に理解して取り組んでいることが重要である

ことを指導者は理解しておきたい。さらに、グループ活動において、指導者が生徒に無意味な関わりを持たず、その生徒に指導者が関わらなければならない目的を明確に持って接することが重要であることも理解しておきたい。

教科に関係なく、全教員が共通して取り組むべき事柄もいくつか明示していただいたので、それをふまえてこれからの研究推進を行っていきたい。

5. 添付資料

- ・全体公開授業の資料（指導案・ワークシート）